

平成 29 年 10 月 20 日
健康推進課

平成 28 年度練馬区がん検診無料体験チケット事業について

1 事業目的

子宮がん、乳がんの罹患者は近年増加傾向で、比較的若い年齢で罹患率のピークを迎える。このため、子宮がん検診は 20 歳、乳がん検診は 40 歳からの受診を習慣づけ、がんの早期発見・早期治療に繋げる。

2 事業内容

子宮がん、乳がん検診の検診初年度となる、20 歳および 40 歳の女性区民へ、自己負担金が無料となるチケットおよび啓発用リーフレットを個別送付した。

○無料チケット

対象者の検診費用を無料とすることで受診のきっかけを作り、受診により検診に対する誤解や不安を払拭する。

○啓発用リーフレット

がん検診の制度を周知することに加え、がんに対する正しい知識の普及、早期発見の重要性を伝える。また、適正な受診間隔で受診することの必要性について周知し、継続的な受診を促す。

3 目標

| 種別 | 目標受診率 |
|--------------|-------|
| 子宮がん検診（20 歳） | 11.0% |
| 乳がん検診（40 歳） | 26.0% |

4 実施状況

<対象者>

| | |
|--------------|-------------------------------------|
| 子宮がん検診（20 歳） | 平成 8 年 4 月 1 日～平成 9 年 3 月 31 日生まれ |
| 乳がん検診（40 歳） | 昭和 51 年 4 月 1 日～昭和 52 年 3 月 31 日生まれ |

<発送件数、利用件数および受診率>

| 種別 | 発送件数 | 利用件数 | 受診率 |
|--------------|---------|---------|-------|
| 子宮がん検診（20 歳） | 3,343 件 | 133 件 | 4.3% |
| 乳がん検診（40 歳） | 5,522 件 | 1,179 件 | 23.1% |

<発送日>

平成 28 年 4 月 26 日（火）

5 受診率向上効果について

受診率向上効果を検証するため、2通りで受診状況を比較した。

(1) 無料体験チケット対象者と1歳違いの者との比較

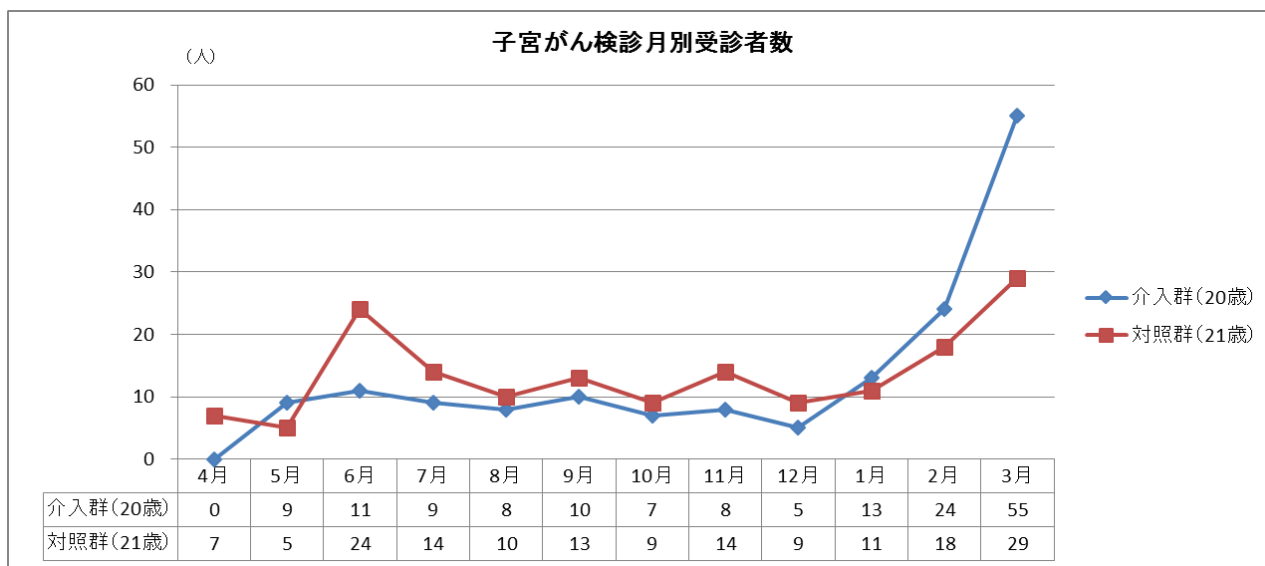
【子宮がん検診】

無料体験チケットの送付翌月である5月の受診者数は、対照群を上回ったものの、以降12月まで対照群を上回ることにはなかった。

1月以降は、介入群の受診が増え、対照群を上回った。

検診対象者における受診割合は、介入群4.3%、対照群4.3%で、差はなかった。

※カイ二乗検定を行ったところ有意差はなかった ($p > 0.05$)



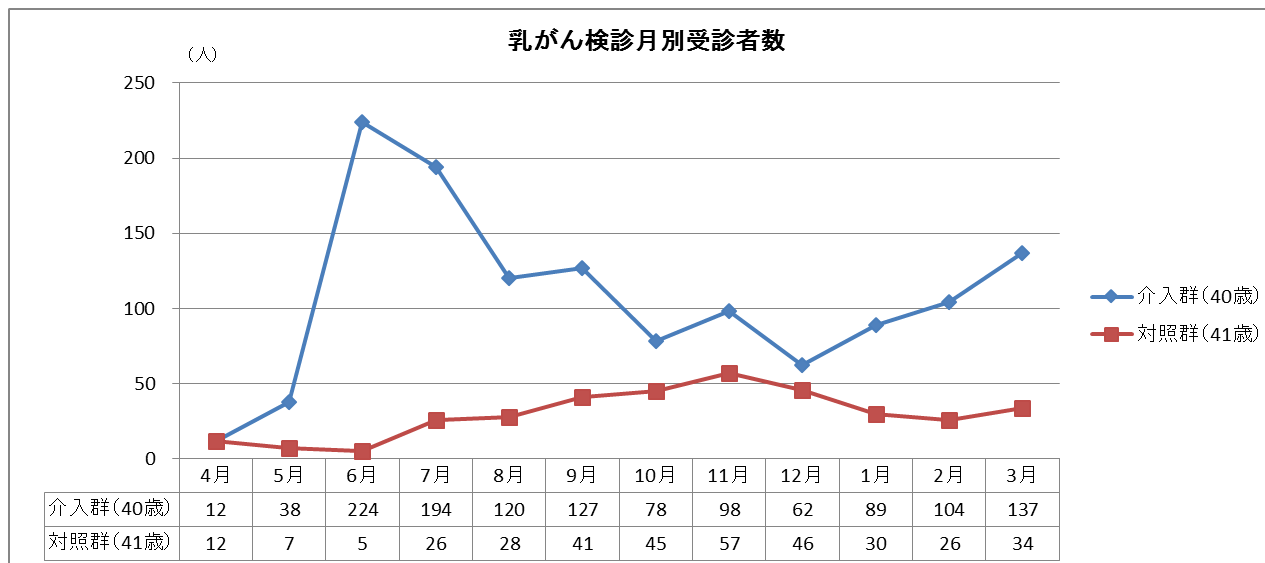
【乳がん検診】

乳がん検診の受診月は、申込み月の2か月後となるため、6月以降の受診状況を比較する。

介入群の6月の受診者数は、対前月比で約5.9倍増加し、以降全ての月で対照群よりも多い。

検診対象者における受診割合は、介入群23.1%、対照群7.1%で大きな差が見られた。

※カイ二乗検定を行ったところ有意差があった ($p < 0.01$)



(2) 平成27年度の同年齢の者との比較

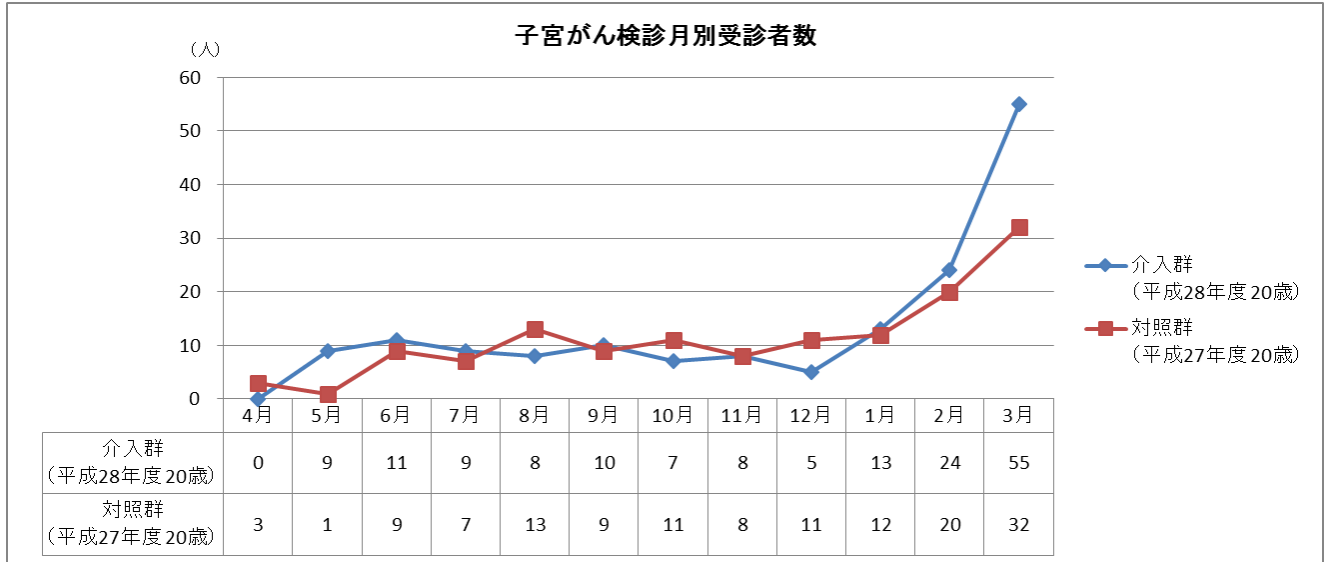
【子宮がん検診】

無料体験チケットの送付翌月である5月の受診者数は、対照群と差が見られたものの、以降1月までは大きな差は見られなかった。

2月・3月は介入群の受診者が増え、対照群を上回った。

検診対象者における受診割合は、介入群 4.3%、対照群 3.7%で、介入群が対照群を上回った。

※カイ二乗検定を行ったところ有意差はなかった ($p>0.05$)



【乳がん検診】

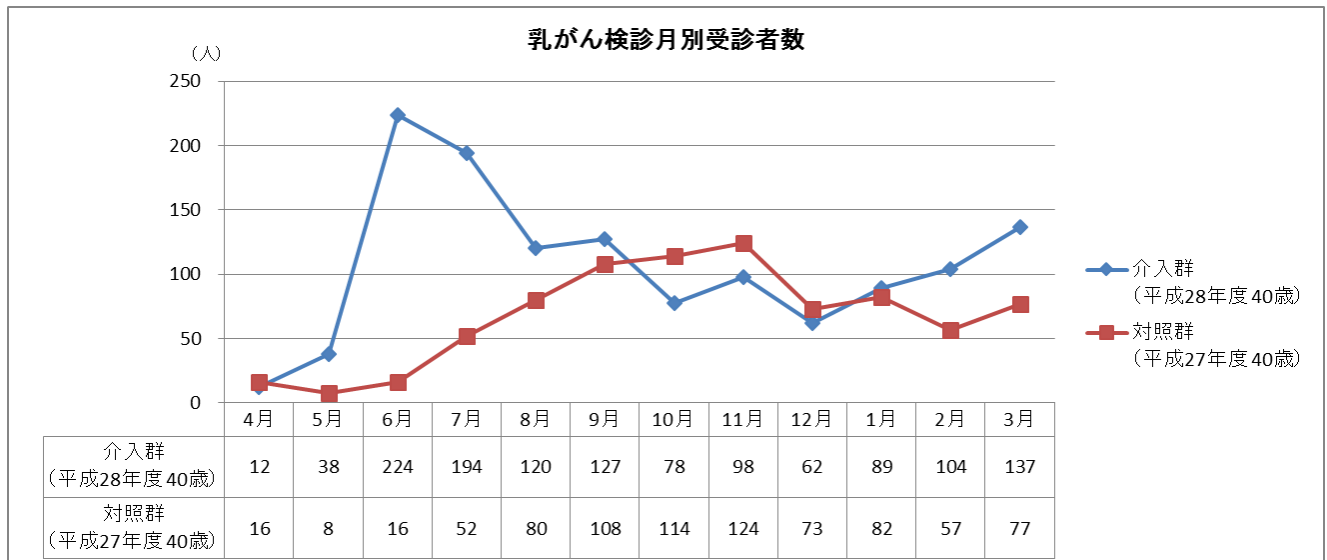
乳がん検診の受診月は、申込み月の2か月後となるため、6月以降の受診状況を比較する。

介入群の6月の受診者数は、対前月比で約5.9倍増加し、6月・7月の受診者数は対照群を大きく上回った。

10月から12月は対照群が上回るものの、1月から3月は再び介入群の受診者が増加し、対照群を上回った。

検診対象者における受診割合は、介入群 23.1%、対照群 13.8%で大きな差が見られた。

※カイ二乗検定を行ったところ有意差があった ($p<0.01$)



6 考察

- (1) 子宮がん検診では、無料体験チケットによる受診率向上効果は確認できなかった。今後事業内容や方法、他事業と関連付けた周知を活用し、利用を促進する取組等を検討する。
- (2) 乳がん検診では、無料体験チケットによる受診率向上効果が見られた。今後、更に受診率を向上させるために通年で受診者数を高水準で保てるような工夫について検討する。